

## 鹿児島市及び連携中枢都市圏3市の市民活動団体のご紹介



国の調査によると、鹿児島県在住の外国人は、平成29年末で9,000名を超えている。外国人労働者の受け入れも進む一方、どう受け入れていくかという面ではまだまだ課題もある。

そんな中、鹿児島市のNPO法人「若者・留学生サポートステーション響」は、国籍や性別、世代などの枠を超えた学ぶ場の提供を通し、外国人をはじめ多様性を理解するきっかけづくりを行っている。

### 差別・偏見のない社会を目指して

現在、当法人では国際理解教育・キャリア教育・生涯学習の3つの分野で事業を展開しています。

1つ目の国際理解教育は、留学生の困りごとを聴いて、それを解決できるような取り組みを行っています。各国の文化理解や日本料理教室、国際交流の会、ホームステイ企画など、地域で日本人と外国人が出会い、仲良くなって、お互いが助け合えるようなイベントを企画しています。

2つ目のキャリア教育は、色々な仕事を知ることが目的です。獣医師やウイスキー造り職人、外国人看護師など、普段はなかなか接することのない専門家の話を聴く機会を設けるほか、語学・心理学講座をしています。また、26の有人離島を抱える本県における学びの支援として、ICT教育を推進しています。

3つ目の生涯学習は、趣味や娯楽を楽しめる講座を開講しており、「学びたい人が学び、教えた人が教える」という学びの循環を生み出しています。

### 人の心に響く活動がしたい

「若者・留学生サポートステーション響」を立ち上げたのは2010年でした。熊本から鹿児島へ移住した自分と、在住外国人の姿が重なり、何か自分にできることはないかと思ったことがきっかけです。

私自身、幼少期から貧困やDVを経験してきました。母子家庭で働きながら子供三人を育てる母を助けたいと思い、看護師になりましたが、妊娠したことで退職を余儀なくされました。当時はマタハラという言葉すらもなかった時代です。知人も少なく、キャリアも断絶され、悩んでいましたが、自分にできることを探しました。1999年に看護師としての知識とパソコンスキルを活かし、医療・育児の無料相談サイトを立ち上げたのが響を始める前のことです。

現在は、社会的包摂の実現に向けた教育活動を行っています。社会的包摂とは、社会的に弱い立場にある人々も含めた市民一人ひとりを排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会（地域社会）の一員として取り込み、支え合う考え方のことです。これまで、鹿児島市を中心に、地域の中での学びの場をつくり、主に若者と留学生の支援を通して、フラットな関係性での対話と多様な価値観への理解のきっかけづくりを行ってきました。

## やりたいことをみんなで叶える

年間150の企画を実行しているので、企画力や行動力、巻き込み力は優れていると思っています。特に強みなのは「逆転の発想」です。例えば、私は英語が話せません。そんな私だからこそ、日本語が分からない留学生に寄り添うことができるのです。一見、マイナスに見える面でも、逆転したらプラスになります。イベントにきてくれた人一人ひとりに寄り添って、「あったらいいな」を形にし続けてきました。

私1人で始めた響の活動ですが、今では30名ほどのメンバーがいます。全員が「元参加者」です。最初のイベントは参加者0名でした。だからこそ、来てくれる一人ひとりを大切にしてきました。

響には控えめなメンバーが多いので、トップダウン的なリーダーではなく、サーバントリーダーシップ（「リーダーはまず相手に奉仕し、その後相手を導くものである」という考え方に基づくリーダーシップ論）を導入しています。誰もがリーダーを一度は経験して、お互いにどんな役割かを理解し合います。そうすると、相手の背中を押すこともできるし、自分がリーダーとなるべきかどうかも選択できます。年齢や職業に問わず、フラットな関係性だからこそ、「やりたいことをみんなで叶える」という共通認識が出来上がっています。そして、このフラットな関係性と姿勢こそが私たちが目指す世の中だと信じてこれからも進んでいきたいと思っています。

## 若者・留学生サポートステーション響 団体概要

### <活動内容>

- ①国際理解教育  
日本/グローバル料理教室、ホームステイ企画、日本語教室など
- ②キャリア教育  
・ 専門家の話を聞く機会の提供  
・ ICT教育の推進
- ③生涯学習  
「教えたい人が教え、学びたい人が学ぶ」  
を体現した荒田大学の運営

### <今後の展望>

今までの活動を離島へ配信したり、留学生の家族もサポートできるように活動の幅を広げたい。そのためにもメンバーを増やしたい。  
ボランティアスタッフの「得意」を発揮してもらうことで、活動の幅を拡げ、より多くの人に知ってもらうことが大事。それらを通して、社会的包摂実現の一助になりたい。

### <課題への取り組み>

チームとして困っているのは、「資金・広報・活動拠点」。響を立ち上げて10年になるが、営利活動でないため活動資金獲得の手立てが少なく、資金的には厳しい。活動拠点の変更などを行いながら続けている。会員も増やしつつ、これまで以上に寄付を募るなど財政をうまく回せないかの模索を続けている。  
メンバー募集は随時行っている。地道に続けることを苦にしない人でないと続かないので、そうした人材をどうやって集めるのかも課題に感じている。

- ▷ 名称：NPO法人若者・留学生サポートステーション響
- ▷ 代表者名：牟田京子（鹿児島純心女子短期大学所属）
- ▷ 会員数：30名
- ▷ 主な事業：社会教育／まちづくり／学術・文化・芸術・スポーツ／人権・平和／国際協力／男女共同参画社会／子どもの健全育成／職業能力・雇用機会
- ▷ 連絡先：070-2638-7113

